

病害虫発生予報の見方について

病害虫防除所では、向こう1か月の病害虫の発生を予測した病害虫発生予報を毎月発表しています。予報の作成にあたっては、職員による圃場巡回調査やフェロモントラップ調査等の結果を過去のデータと比較し、病害虫防除員からの情報、各病害虫の発生生態や向こう1か月の気象予報等を考慮して検討しています。ここでは予報をよりよく理解していただくため、予報の見方について説明しますので参考にしてください。

【注意すべき病害虫】

向こう1か月の間に多発生が懸念され注意を要する病害虫や、例年その月に発生が問題となる病害虫について記載しています。

1. ハダニ類

[予報内容]

予報の対象地域

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	多い	県下全域

向こう1か月間の予測を、「平年値」との対比により記載します。

平年より

「早い」(6日以上)

「やや早い」(3~5日)

「平年並」

「やや遅い」(3~5日)

「遅い」(6日以上) 等で表記します。

特定しない場合は、「-」で表記します。

向こう1か月間の予測を、「平年値」との対比により記載します。

平年より

「多い」

「やや多い」

「平年並」

「やや少ない」

「少ない」 等で表記します。

特定しない場合は、「-」で表記します。

【予報の根拠】

予報内容の根拠を記載します。圃場巡回調査やフェロモントラップ調査等の結果に基づく現在の発生状況、予想される気象条件が対象病害虫に及ぼす影響等について記載しています。

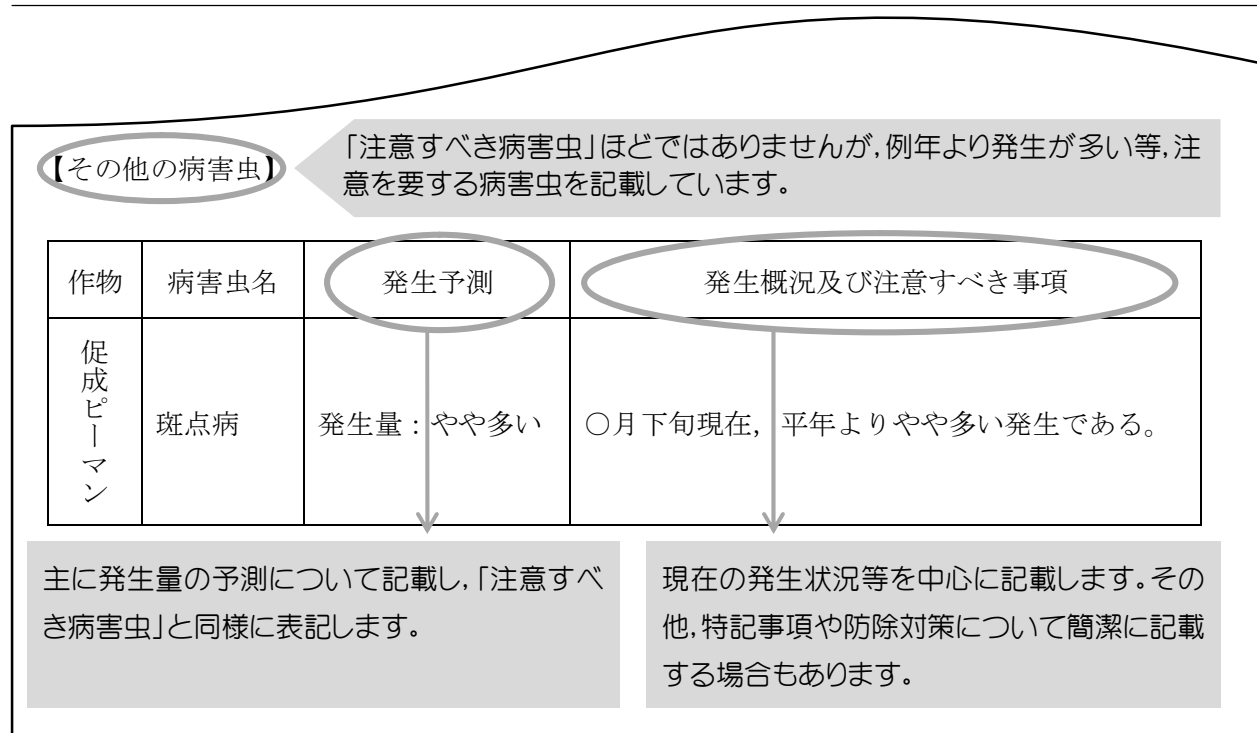
- ① ○月下旬現在、被害葉率、発生地点率ともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

【防除上注意すべき事項】

防除を行う際に、注意すべき事項等について簡潔に記載しています。

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる剤を用いてローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を導入している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

病害虫発生予報の見方について（続き）



予報等に記載される用語例

病害虫防除所が発表する予報等の病害虫に関する情報では、いくつか特徴的な用語を使用していますので、主に記載される用語について簡単に解説します。

・発病度、被害度

調査圃場における対象病害虫の発生状況を客観的に評価するため、調査株を被害程度別に区分・集計して数値化したものです。最小値は0で最大値は100となります。

・発生地点率

圃場巡回調査で、対象病害虫の発生や被害が見られた地点（圃場）の割合です。

・平年値

過去10年間の調査データの平均値です。調査を開始してから10年が経過していない場合は、○年平均値と示します。

・フェロモントラップ

主に性フェロモンを誘引源として対象害虫を誘殺する装置です。害虫の発生状況を調査するために利用しています。

・予察灯

夜間に電球を点灯し、光に集まる虫を毎日誘殺する装置です。害虫の発生状況を調査するために利用しています。